

2025年12月期  
第2四半期（中間期）決算補足資料

---

2025年8月12日



1. 2025年12月期第2四半期（中間期） 決算概要	P. 2
2. 事業進捗状況	P. 5
3. ソリューションサービス事業	P. 8
4. エンジニアリングサービス事業	P. 11
5. 重点施策の取り組み状況	P. 14
6. 業績予想	P. 29
7. APPENDIX	P. 31
OGI GrowUp2028 概要	P. 32
会社概要	P. 37

## CONTENTS



# 2025年12月期第2四半期（中間期） 決算概要

1



# 2025年12月期第2四半期（中間期） 決算概要

売上高  
3,613百万円  
(前年同期比 4.8%減)

売上総利益  
1,149百万円  
(前年同期比 8.8%増)

営業利益  
637百万円  
(前年同期比 15.5%増)

- BIM関連業務を中心に引き合いは増加、受注は堅調に推移
- 大手～中堅・地場ゼネコンへのサブスクリプションサービス(BooT.one)の導入は着実に増加しているものの、当初に想定していたほどのスピード感には至らず
- 住宅設備・建材メーカーを中心に顧客接点ソリューションの導入が順調に推移
- 国交省による「直轄工事でのBIM/CIM適用」によりツール構築を伴うCIM活用コンサルティング案件が活発化
- 河川防災案件に加え、昨今の都市型浸水対策支援や水道事業の耐震・維持管理支援業務の受注が拡大
- 前期は受注に時間を要していた民間系都市開発事業支援が、当期に入り受注が進み始める
- 前期末の大型案件中断の影響が当中間期でようやく収束

# 2025年12月期第2四半期（中間期）決算概要

（単位：百万円）

	当中間会計期間		前中間会計期間		増減額	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
売上高	3,613	—	3,794	—	△ 180	△4.8%
売上総利益	1,149	31.8%	1,055	27.8%	93	8.8%
販売費及び一般管理費	512	14.2%	504	13.3%	7	1.5%
営業利益	637	17.6%	551	14.5%	85	15.5%
経常利益	662	18.3%	560	14.8%	102	18.4%
中間純利益	462	12.8%	387	10.2%	74	19.3%
1株当たり中間純利益	81.03円		67.91円		13.12円	19.3%



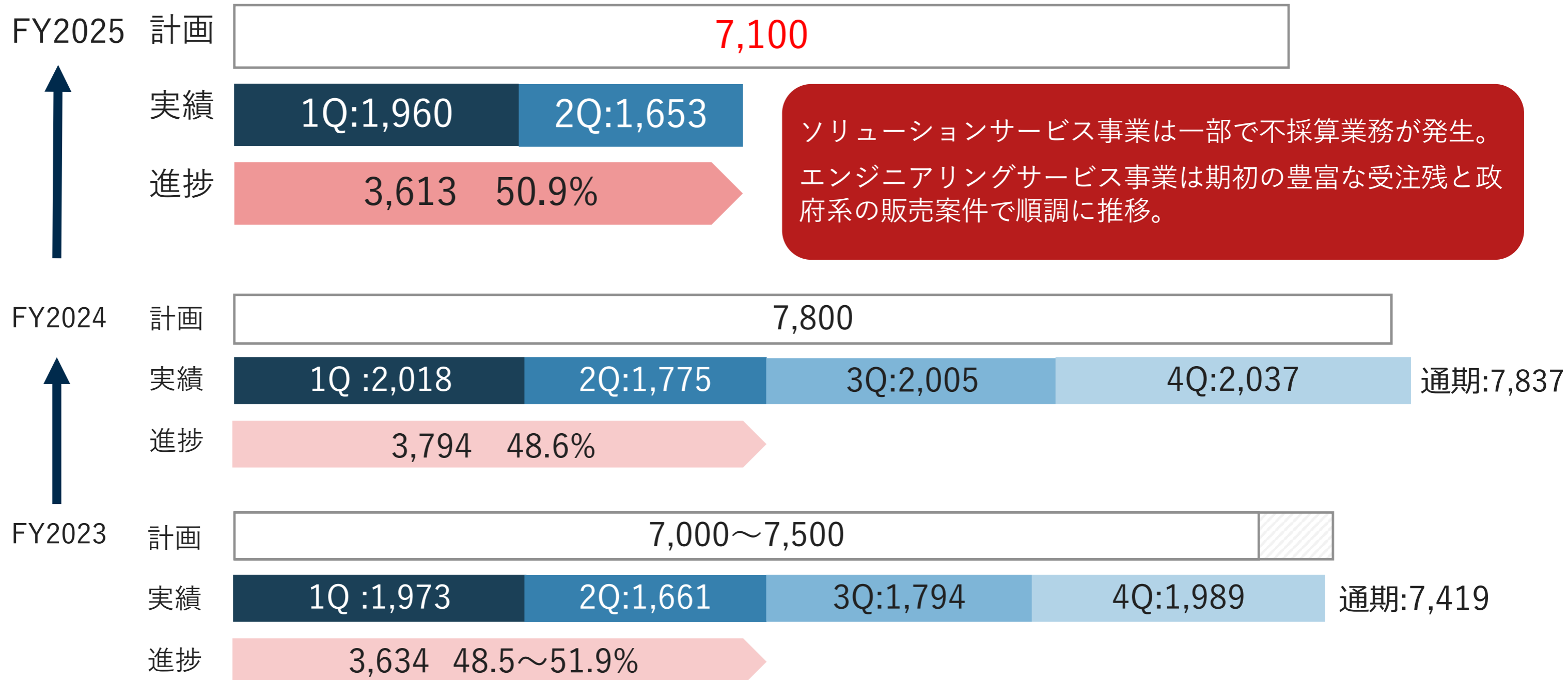
## 事業進捗状況

2

# 事業進捗状況（売上高）

## 通期売上予想に対する上期進捗率

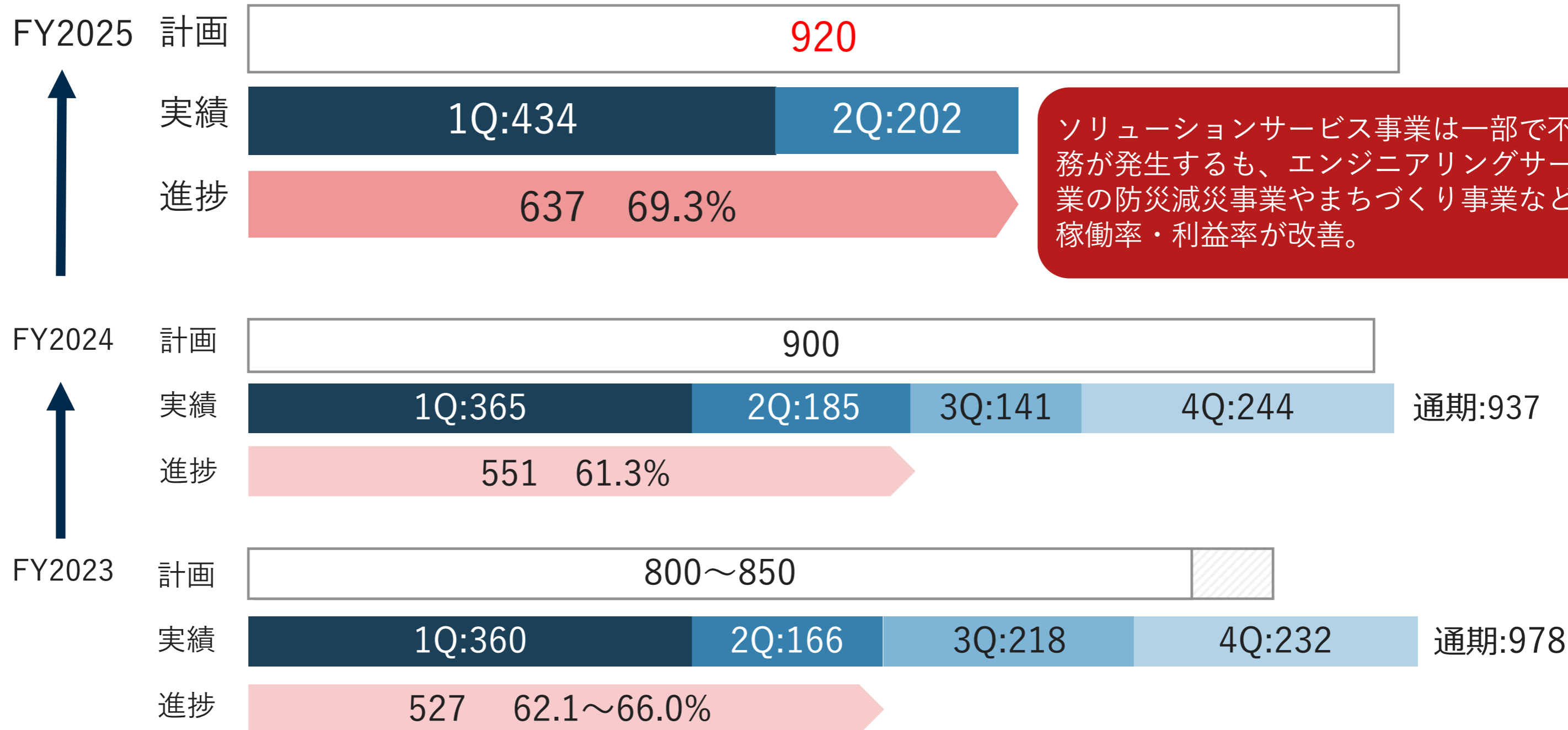
(単位：百万円)



# 事業進捗状況（営業利益）

## 通期営業利益予想に対する上期進捗率

（単位：百万円）







# ソリューションサービス事業

3

# ソリューションサービス事業

お客様が抱えておられる課題の抽出やニーズの確認、システム導入後の効果の検証などをお客様目線で行い、当社保有のパッケージを活用した業務の効率化を実現します。

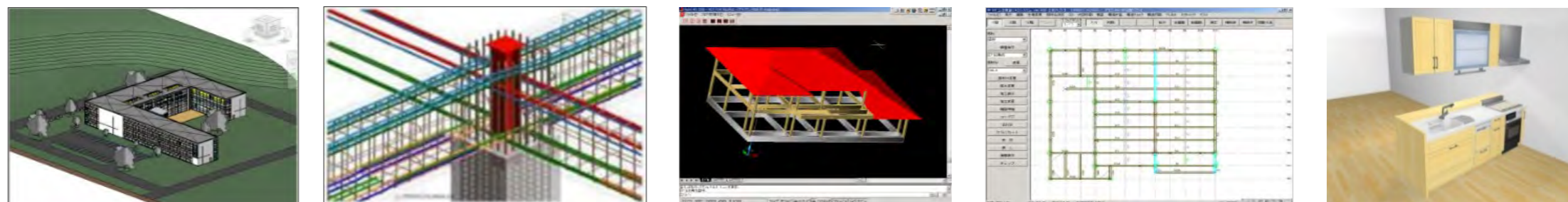
## 製造 DX

**製** 造業のお客様の課題に対して、自社開発パッケージとCAD技術を活かし、お客様のビジネスプロセス（営業活動～設計～アフターサービス）を改善するサービスを提供しています。

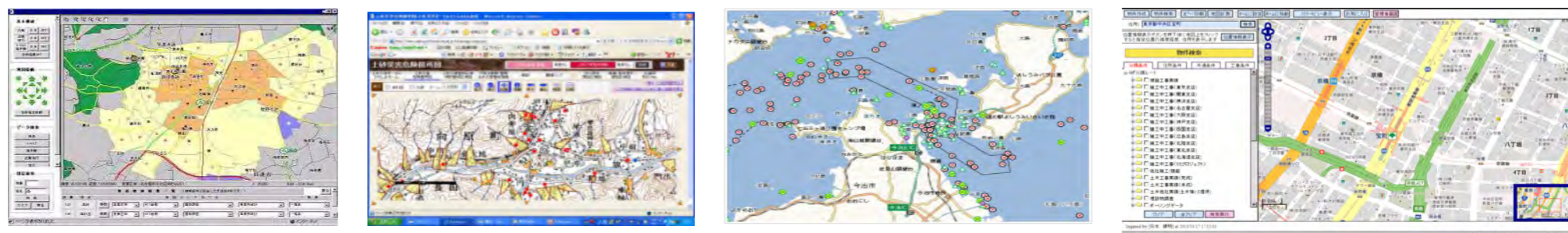


## 建設 DX

**建** 設・設備業のお客様に対して、BIM、CAD、施工管理、設備設計など幅広い領域で、お客様のビジネスプロセス（設計、構造、省エネ、施工、点検）を改善するサービスを提供しています。



**地** 理情報システム（GIS）を活用し、電力・ガス・建設・不動産・物流などのお客様の業務効率化の支援をしています。





# ソリューションサービス事業

## 業績推移

2022年12月期より新収益認識基準を適用しております。

(単位：百万円)

	中間会計期間		業績推移		
	2021年12月期	2022年12月期	2023年12月期	2024年12月期	2025年12月期
売上高	1,973	2,426	2,555	2,807	2,546
セグメント利益	526	558	623	544	511
売上高営業利益率	26.7%	23.0%	24.4%	19.4%	20.1%





# エンジニアリングサービス事業

4



# エンジニアリングサービス事業

エンジニアリングサービス事業は3つの分野を柱に、高度な解析・計算技術を活用した課題解決型のコンサルティングサービスで社会に貢献しています。

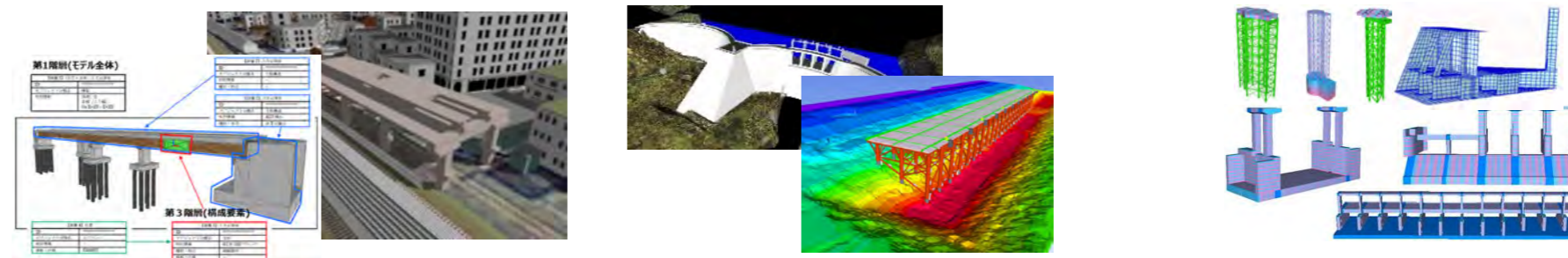
防災  
減災

**防** 災・減災分野での専門性と数値シミュレーション技術を活かし『防災・減災対策』『社会資本の維持管理』『安心・安全な生活』に関するエンジニアリングサービスを提供しています。



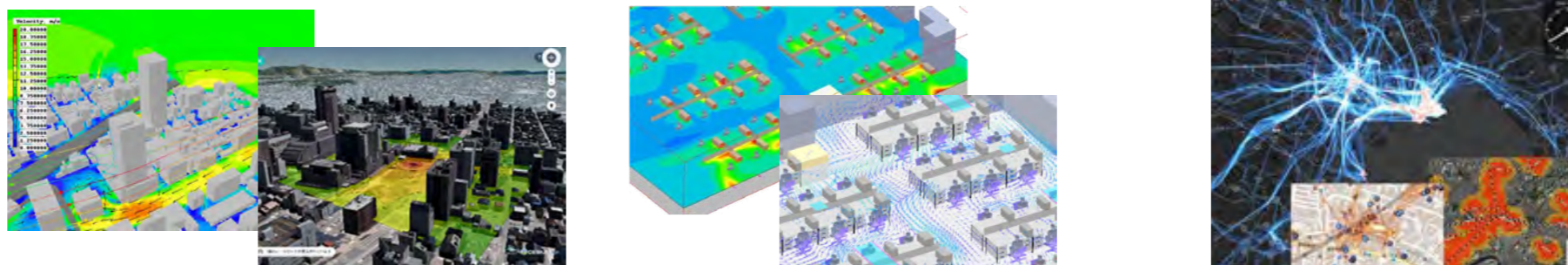
建設ICT  
CIM

**建** 設ICT・CIM分野では、建設ICT、CIM-プラットフォーム、3次元モデリング、GIS技術を活用し、建設生産性の向上のための情報基盤整備、公共・インフラ分野に関するマネジメントを支援しています。



環境  
まちづくり

**環** 境・まちづくり分野では、環境・社会調査技術、人流データ等の解析技術を活かし『生活環境改善』『カーボンニュートラルな社会の実現』のためのコンサルティングサービスを提供しています。



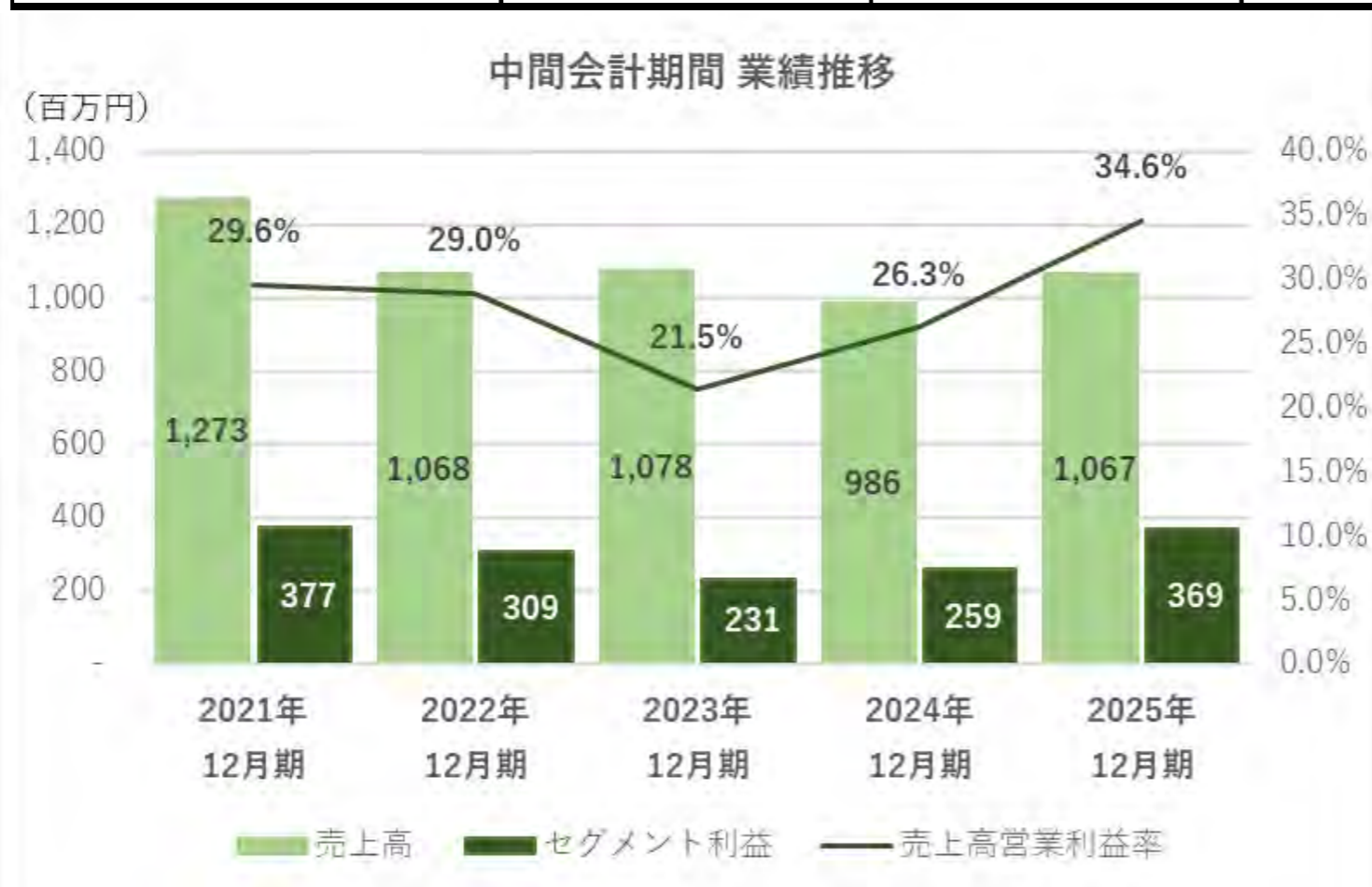
# エンジニアリングサービス事業

## 業績推移

2022年12月期より新収益認識基準を適用しております。

(単位：百万円)

	中間会計期間		業績推移		
	2021年12月期	2022年12月期	2023年12月期	2024年12月期	2025年12月期
売上高	1,273	1,068	1,078	986	1,067
セグメント利益	377	309	231	259	369
売上高営業利益率	29.6%	29.0%	21.5%	26.3%	34.6%



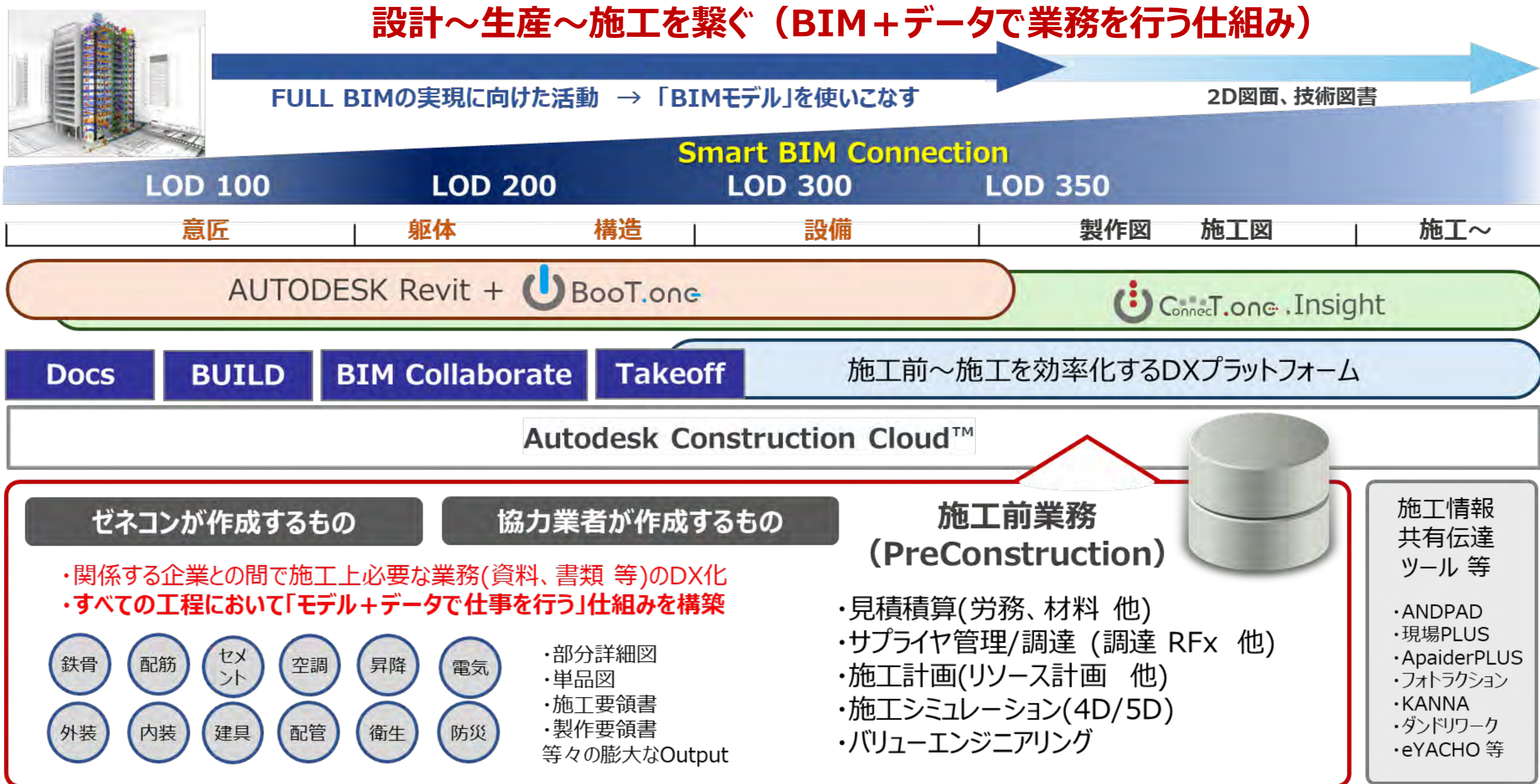




## 重点施策の取り組み状況

5

# 重点施策の取り組み状況（建設）

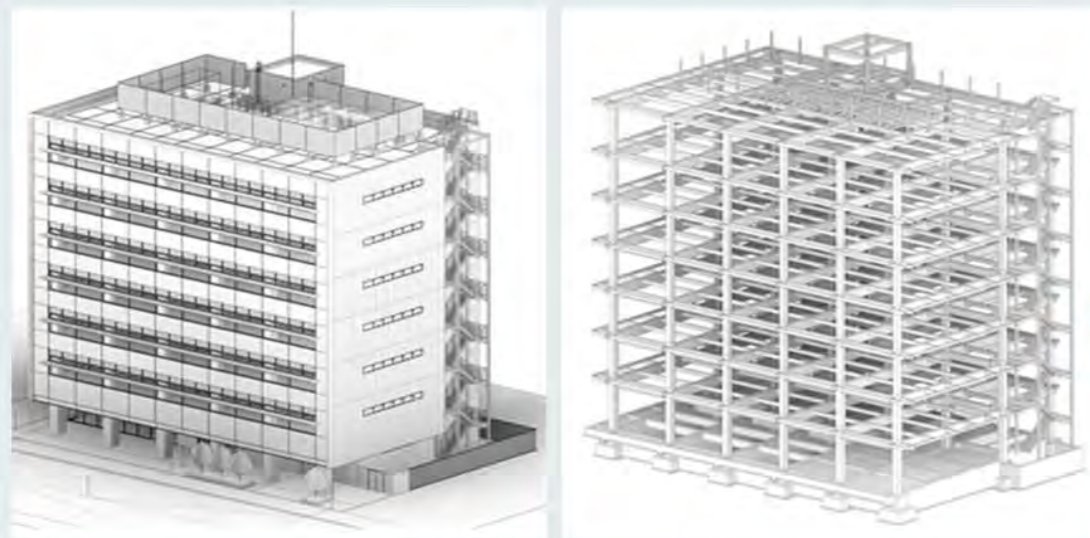




# 重点施策の取り組み状況（建設）

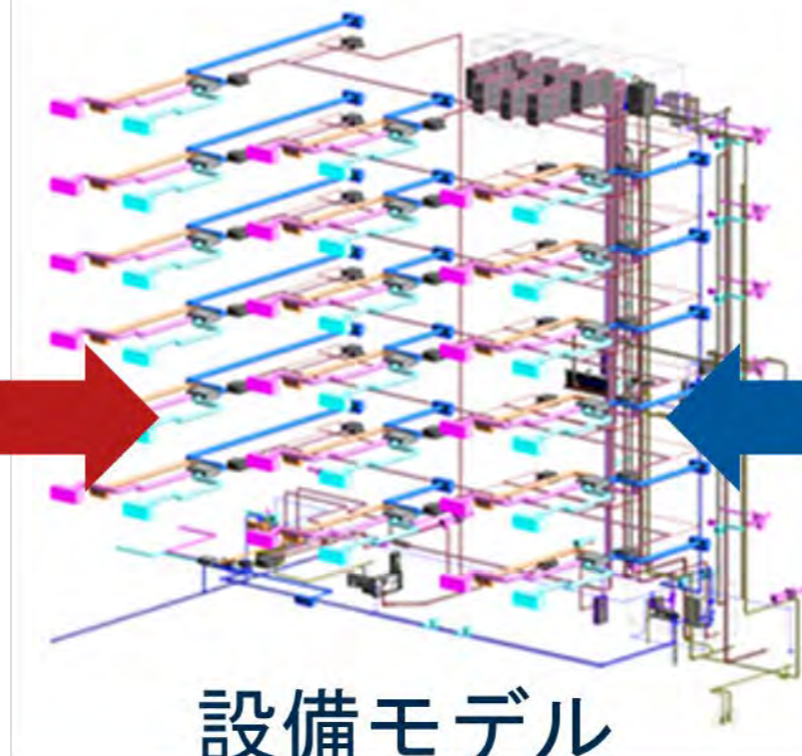
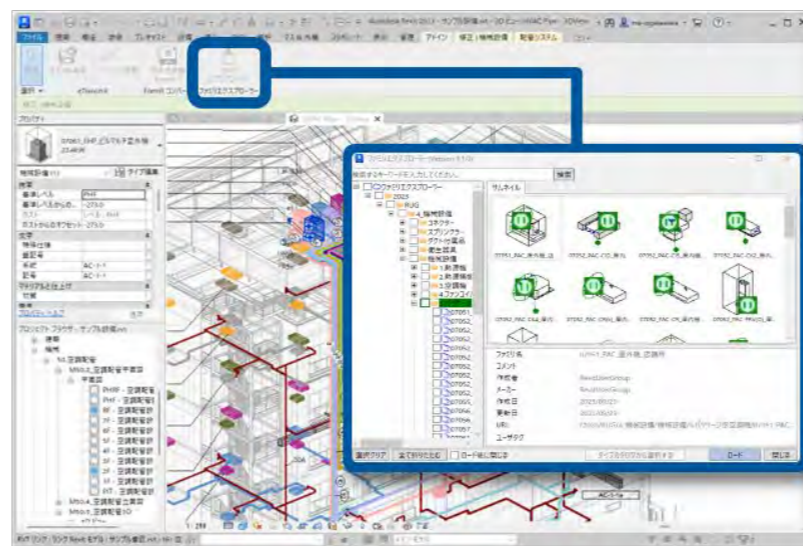
BIMモデルを中心に、ゼネコン・サブコン・設備メーカーを繋ぐ FAMILY EXPLORER を提供。今後、機能拡張を進め、利用者の利便性を高めていく。

## 1 建築モデル取り込み



建築モデル

Autodesk Revit



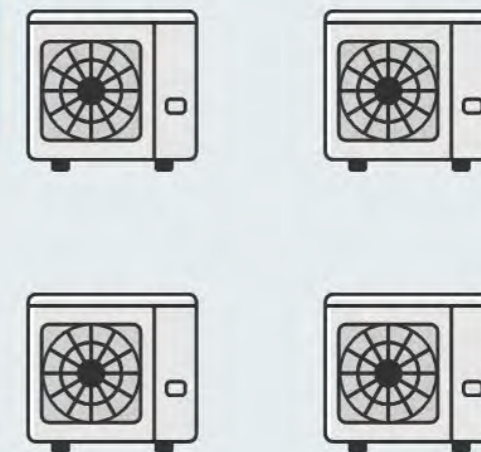
設備モデル

BooT.one Family Explorer



## 2 機器を選定・配置

機器配置





# 重点施策の取り組み状況（建設）

## 建設通信新聞 BIMイノベーション2025特集号掲載（2025/5/29）

P.7

2025年(令和7年)5月29日(水曜日) 建設 電気 機械 土木 交通 建設 月刊

### 施工全面展開へ成功例共有

高砂熱学工業の施工現場へのBIM導入に向け、本格的に取り組んでいる。2021年に導入したDx戦略の核としてBIM導入を推進し、2024年にBIMソフト「Revit」を導入し、2025年にMOU（戦略的提携）1.0、24年にはRevit 1.0も導入した。このようにシステムで施工現場への定着を図る。高砂熱学工業のBIM推進は、土木建築本部、オートデスクの鈴木実業執行役員建築土木事業本部部長と高砂熱学工業の鈴木実業執行役員建築土木事業本部部長とが、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。高砂熱学工業のBIM推進は、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。高砂熱学工業のBIM推進は、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。



高砂熱学工業のBIM推進は、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。高砂熱学工業のBIM推進は、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。高砂熱学工業のBIM推進は、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。

### 高砂熱学工業×オートデスク×応用技術

高砂熱学工業とオートデスクのMOUを機に、高砂熱学工業のBIM推進は、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。高砂熱学工業のBIM推進は、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。高砂熱学工業のBIM推進は、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。

### 横断的な現場支援体制も確立

高砂熱学工業のBIM推進は、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。高砂熱学工業のBIM推進は、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。高砂熱学工業のBIM推進は、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。

P.13

2025年(令和7年)5月29日(水曜日) 建設 電気 機械 土木 交通 建設 月刊

### 「oneAQ」は等身大プラットフォーム

美保テクノスの応用技術。oneAQは、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。oneAQは、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。oneAQは、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。



oneAQは、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。oneAQは、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。oneAQは、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。

### 「Connect.one ACCURATE」は2025年度中にリリースへ

Connect.one ACCURATEは、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。Connect.one ACCURATEは、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。Connect.one ACCURATEは、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。

### 美保テクノス自ら試験導入

美保テクノスは、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。美保テクノスは、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。美保テクノスは、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。

### 試行錯誤のプロセスを見える化

oneAQは、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。oneAQは、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。oneAQは、高砂熱学工業のBIM推進を支援する。

BIM 標準化のための導入、定着、活用をワンストップで支援

# to BIM

BIM の総合支援サービス

コンサルティング	システム開発	BPO
ソフトウェア販売	Autodesk 製品支援	



 応用技術株式会社


 応用技術株式会社

## 人とひと、人と街を、 確かな線でつなぐ。

応用技術株式会社は、  
まちづくりの様々な課題に  
深く寄りそいます。





# 重点施策の取り組み状況（建設）

建設通信新聞 BIMイノベーション2025特集号掲載（2025/5/29）

P.20

2025年（令和7年）5月29日（木曜日）


## 「木造BIM」確立へ新ステージ

大和ハウス工業、MAKE HOUSE、応用技術が取り組む「木造BIM」が新たなステージに入る。大和ハウス工業は今年度から木造BIMを本格展開し、応用技術はMAKE HOUSEと連携して取り組むRevitと連携ツール「BooT.one」の木造向け機能のリリースに乗り出す。大和ハウス工業の吉川明彦東京本社技術戦略企画グループ長、MAKE HOUSEの今吉勝代代表取締役、応用技術の小西康裕専務DX事業統括責任者に、木造BIMの進め方や方向性を聞いた。

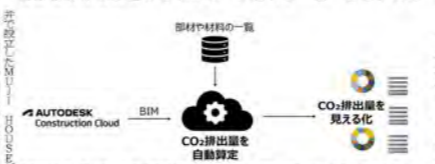
吉川 明彦、今吉 勝代、小西 康裕

### 大和ハウス工業×MAKE HOUSE×応用技術

木造BIMによるデータ連携



プレカット工場との連携がカギ



大和ハウス工業とパートナー企業が開発したCO<sub>2</sub>排出量算定ツール「ICT」のスキーム

設計業務を効率化



### Autodesk Revit アドインツール

- 標準化されたファミリー&テンプレート
- 作業ステップを削減するコマンドや機能
- 手厚いサポートやトレーニングコンテンツ

1ヶ月 無料  
トライアル

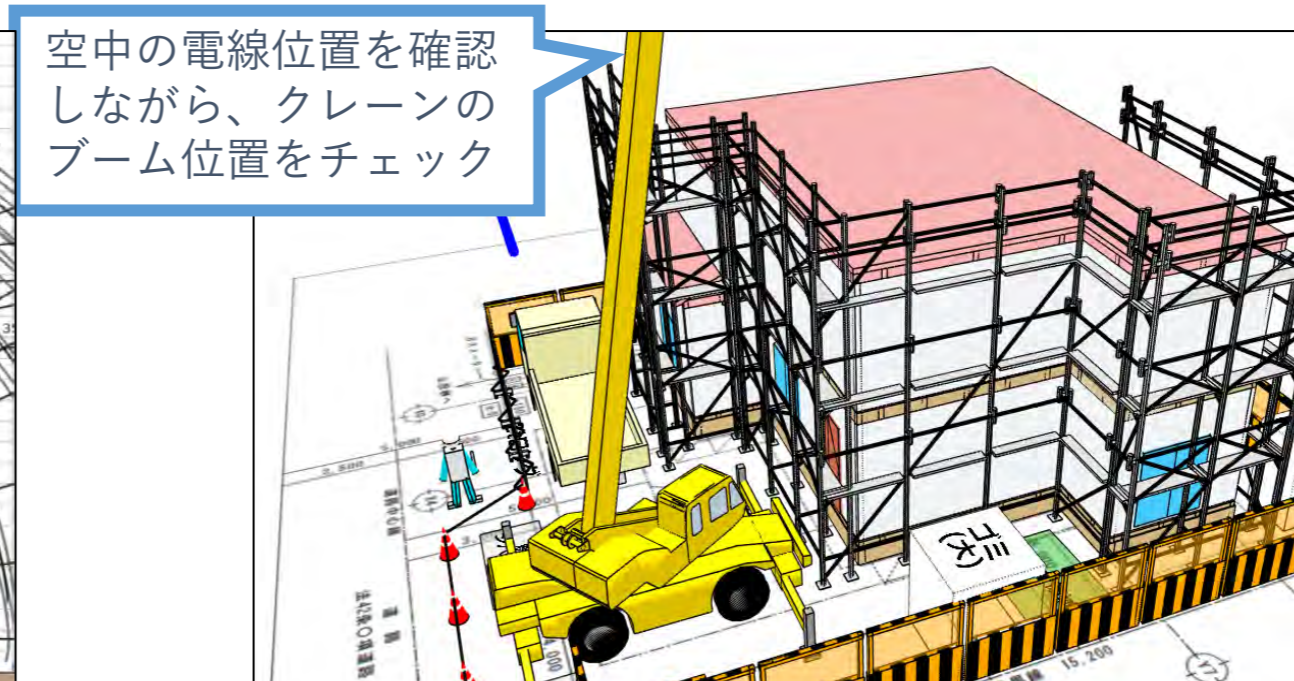
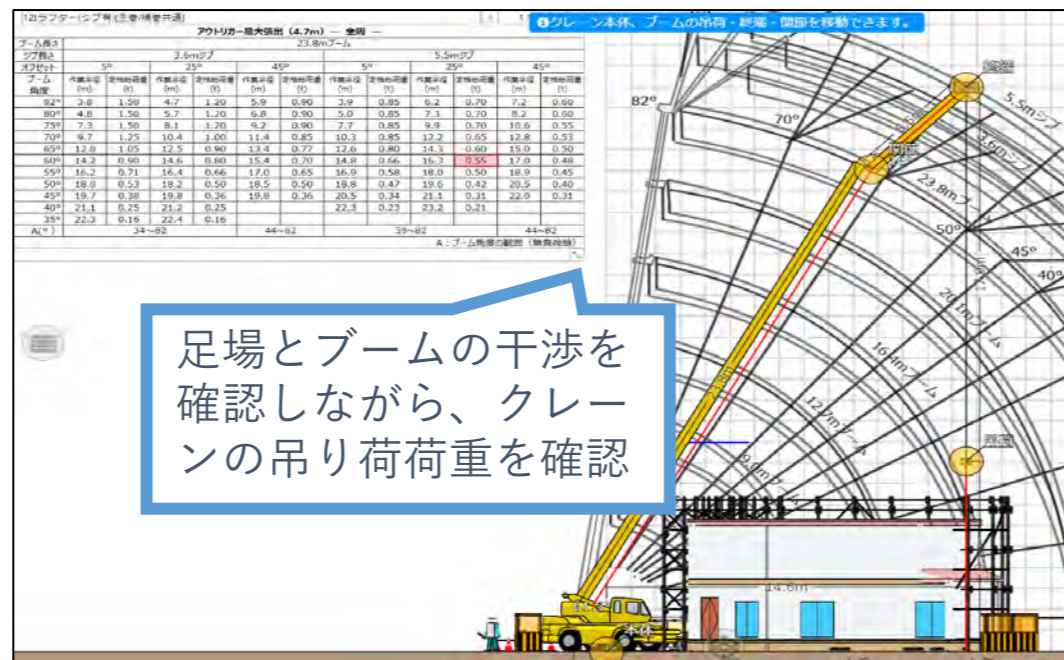
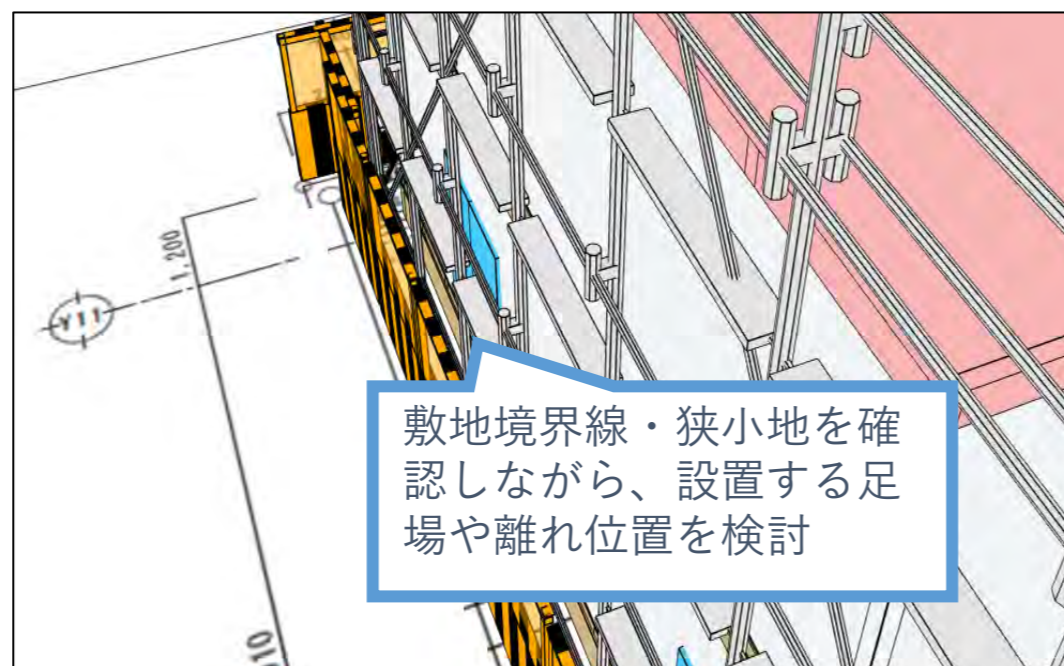
応用技術株式会社



# 重点施策の取り組み状況（建設）

## WebConstructionPlanner（3D施工計画支援システム）

建設工事を円滑に進めるうえで重要な仮設計画を行うサブスクリプションサービスをリリースしております。既に大手ハウスメーカーの新築全棟で採用されており、順次ユーザーを拡大中です。



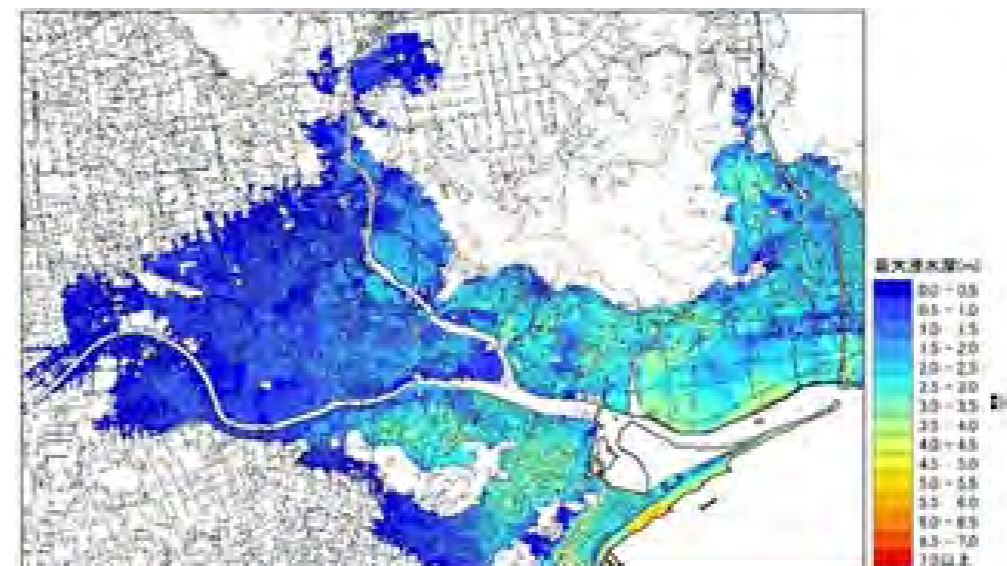


# 重点施策の取り組み状況（防災・減災）

## 防災・減災技術（Bigdata, IoT）を新たなまちづくりへ活用



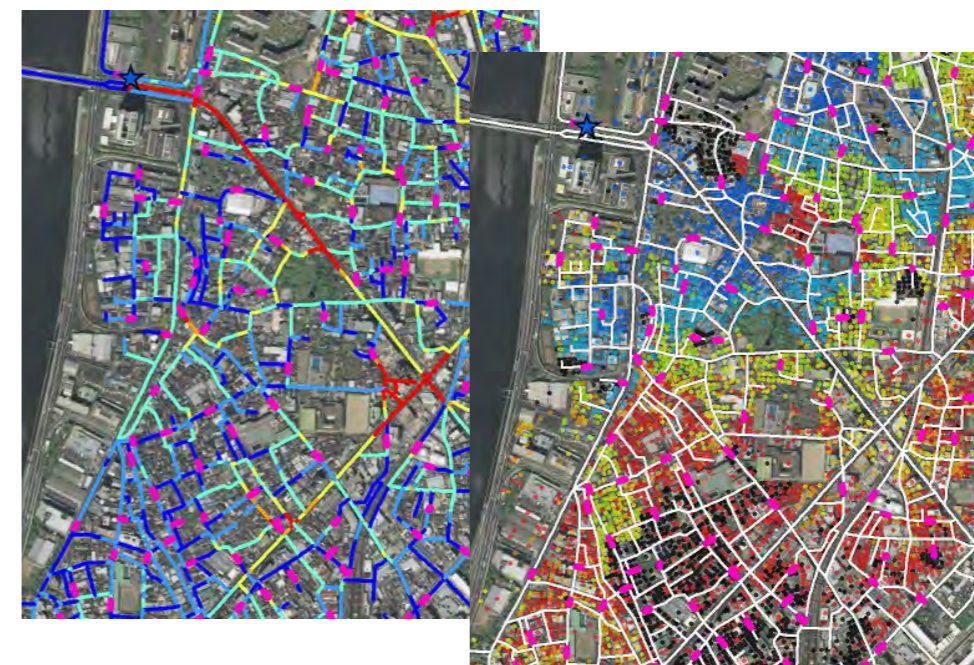
3D都市モデル(PLATEAU)を活用した  
津波浸水シミュレーション



氾濫シミュレーション



上下水道 維持管理対策支援  
(Infoworksによる内水氾濫解析、管渠リスク評価)

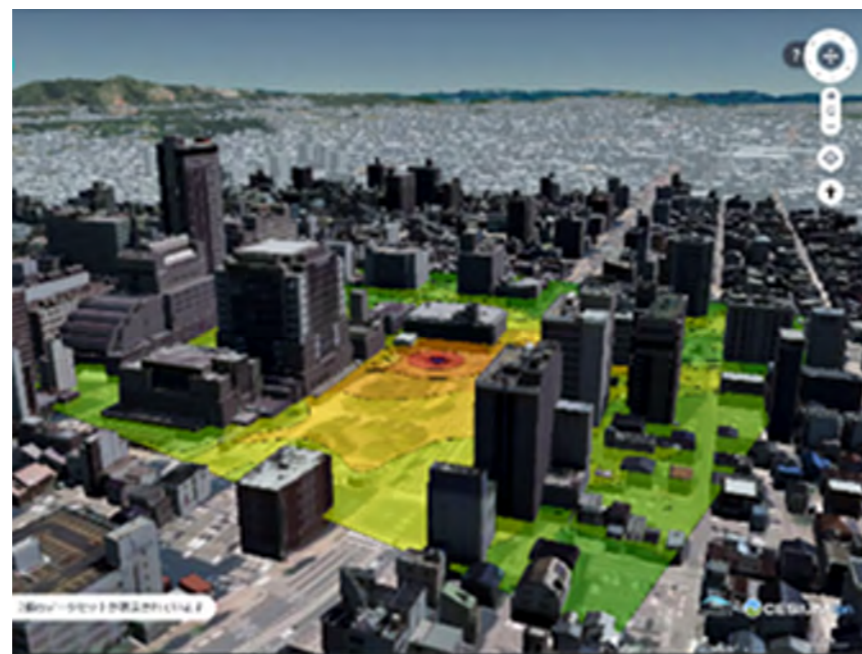


地震火災による建物倒壊と避難経路遮断、  
大量の避難者による混雑、避難の遅れ

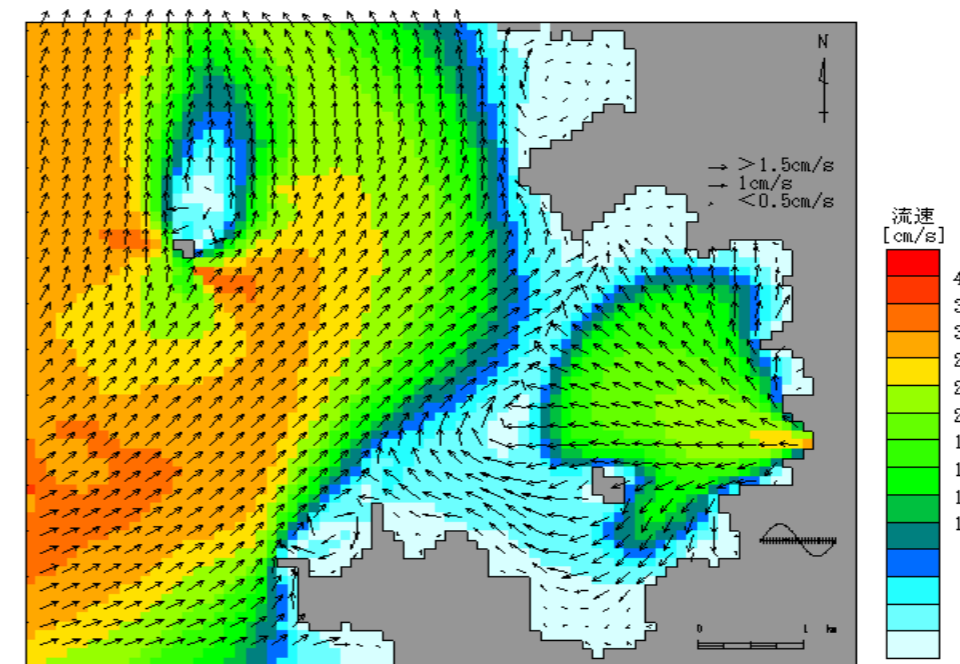


# 重点施策の取り組み状況（環境解析・まちづくり）

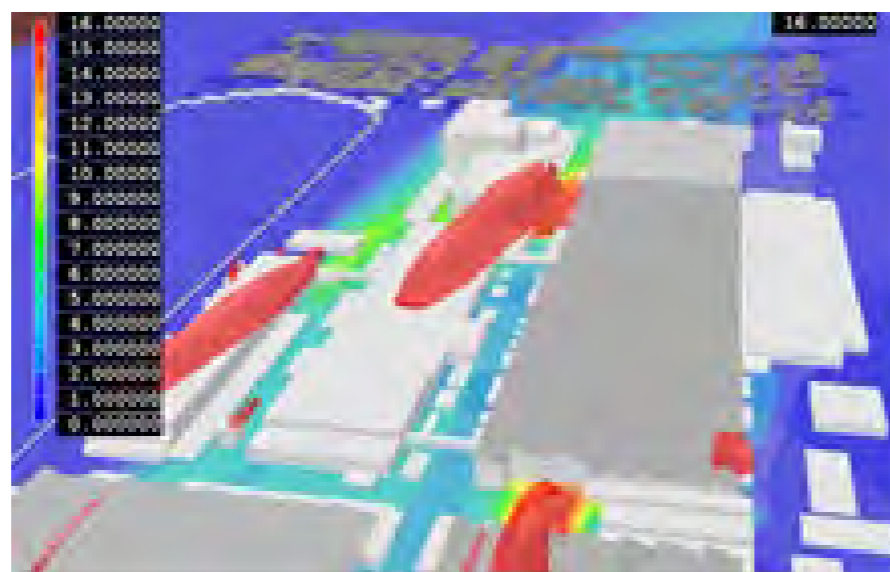
## 様々な環境シミュレーションを新たなまちづくりへ活用



3D都市モデルを活用した環境シミュレーション



潮流シミュレーション



悪臭対策・大気拡散シミュレーション



人流データ分析とまちづくりシミュレーション



# 重点施策の取り組み状況（土木）

## toCIMサービス BIM/CIM属性管理ツール『Navismaster』の展開・普及

2023年度より、すべての公共工事がBIM/CIM原則適用の対象となりました。BIM/CIM業務の効率改善を目的に属性管理作業をサポートするアドインツール『Navismaster』を2022年6月にリリースし、市場のニーズを取り込みながら2025年5月にはVer 3.6へとアップグレードを行い、国土交通省「令和7年BIM/CIM取扱要領（R7.3）」に対応した機能を搭載しました。今後も生産性向上と属性情報の利用による「積算・設計変更に関する仕事の効率化」に向けたシステムの展開・開発に注力してまいります。

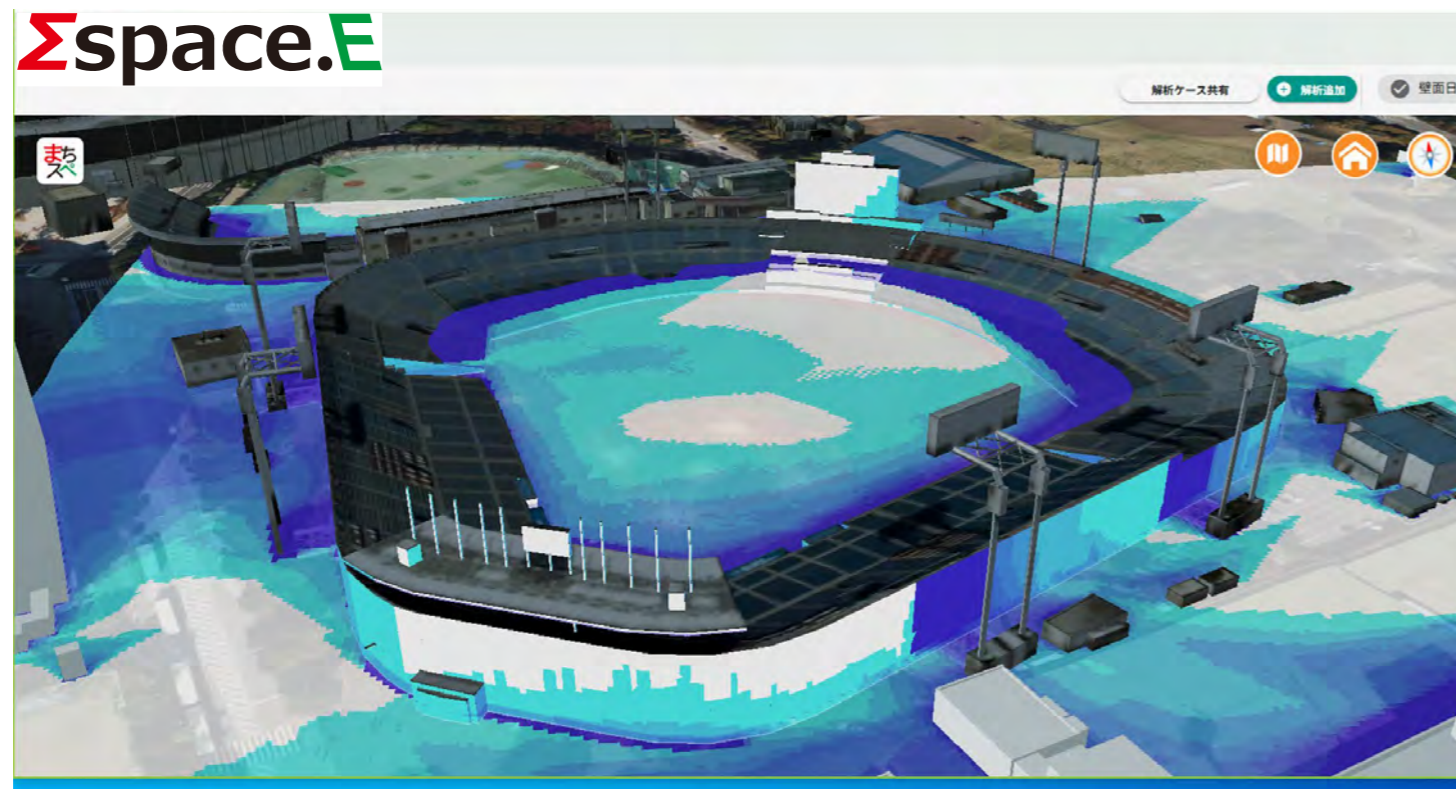




# 重点施策の取り組み状況（都市データ利活用）

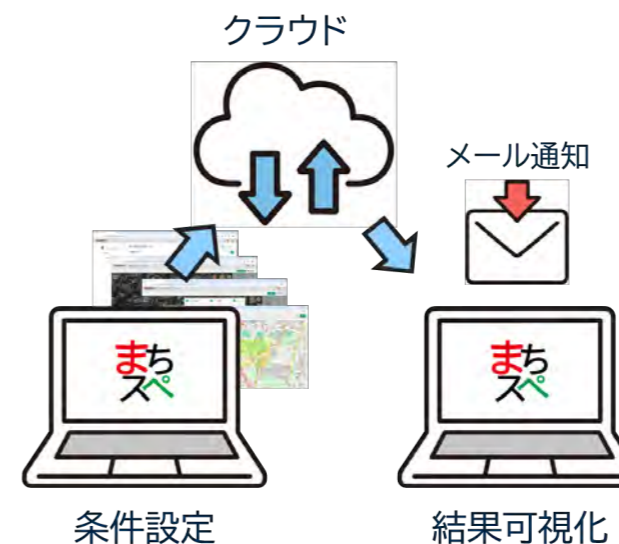
## toENGサービス デジタルツインプラットフォームの利活用

国土交通省が推進する「PLATEAU」を活用したクラウドベースの環境シミュレーションサービス「Σspace.E」（以下「まちスペ」）を2024年11月28日に公開し、2025年6月30日には対応エリアを従来の2都市から28都市へ拡大し、日影解析の簡易環境シミュレーションを無償提供中です。「まちスペ」ではWEBブラウザ上で身近な環境の簡易解析とその結果を可視化・共有することが可能です。今後、風況平面、風況断面、騒音、振動、大気質の各種解析のほかコンテンツの充実を図ります。



PLATEAUデータで環境シミュレーションを！

- ☑️ Cloudベースの3D都市モデルの上でのシミュレーション
- ☑️ 結果やワークスペースを他のユーザーと共有できる
- ☑️ BIM/CIMデータ等を手軽にモデルの上に配置できる



# 重点施策の取り組み状況（ものづくり）

既存の枠組みにとらわれない新しい価値を提供！

社会情勢	社会背景	BCP	利益拡大	人材
国際競争力の低下	CO2削減 規制強化	サプライチェーン分断	顧客ニーズ多様化	少子高齢化による人材不足
COVID-19	製品機能向上/軽量化	サプライチェーン再構築	製造プロセスの最適化	技能継承の寸断
原材料価格の高騰	少量多品種生産	調達リスク可視化	調達リスク可視化	IT活用の遅れ

## 新しい製造工法

Additive Manufacturing  
(3Dプリンティング)

～プロダクト改革～



新しい設計手法・製造工法による付加価値を創出

**コンサルティングサービス**を軸とした  
**新しいものづくり手法をサポート**

## 既存の製造工法

Machining  
(切削加工)

～プロセス改革～



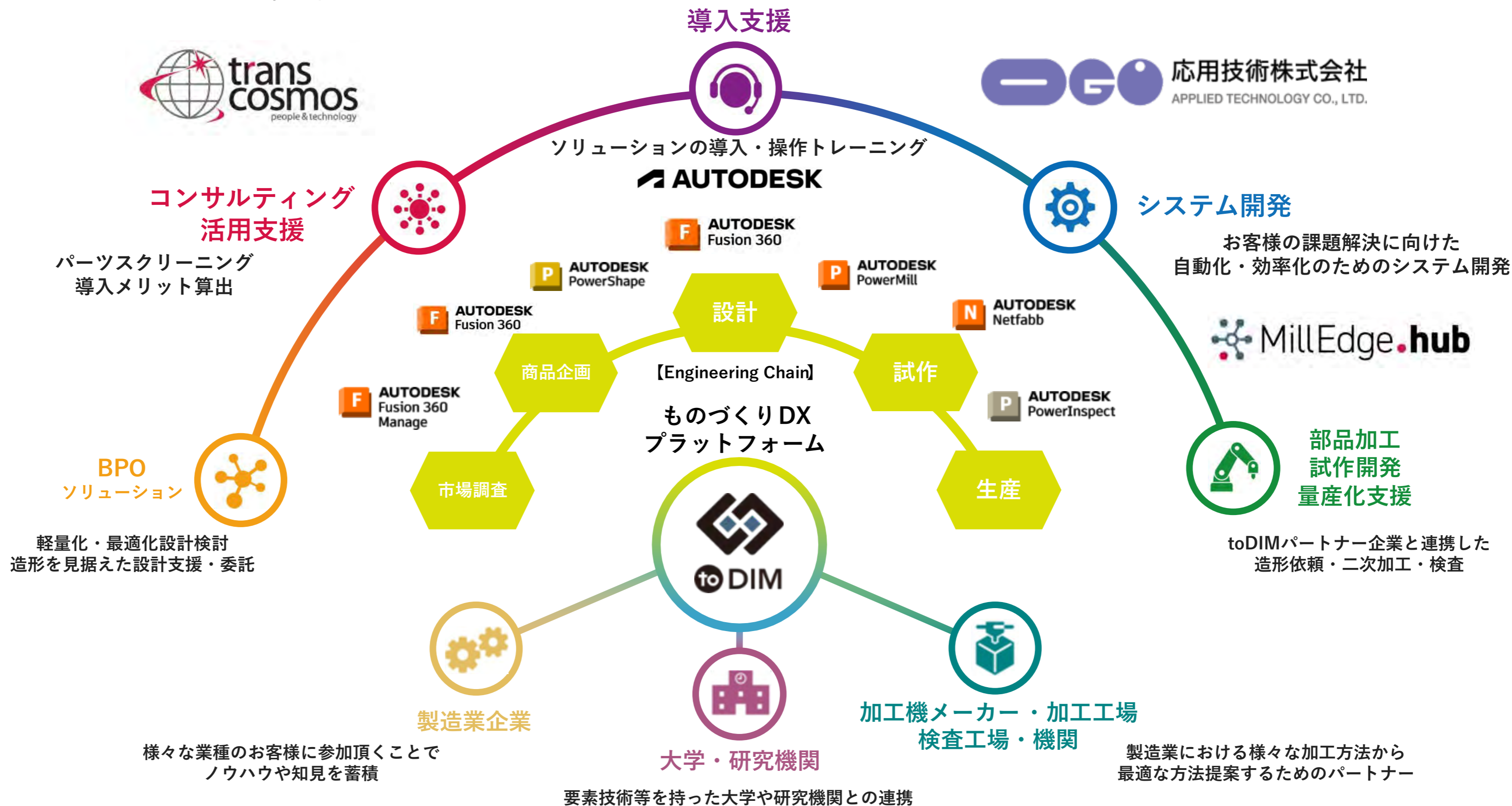
設計業務プロセスの自動化・ノウハウの蓄積と活用

**toDIMプロダクト開発**を軸とした  
**オペレーション最適化/属人化の脱却**



# 重点施策の取り組み状況（ものづくり）

ものづくりに革新を起こすプラットフォームサービスの展開に注力





# 『Additive Manufacturing』 サービス

## AM技術活用成功

～技術の知識・プロセスの理解・DfAMの実現・プロジェクト支援にも対応～

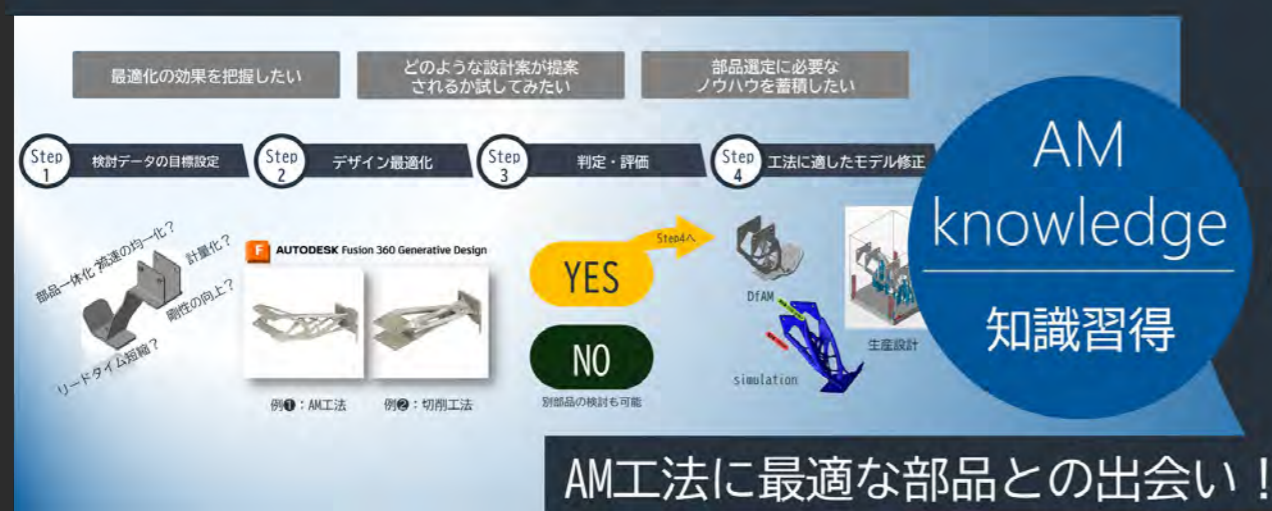


AM活用に必要な4つの要素

AM knowledge  
知識習得

Success story  
成功体験へ繋げる

Design for AM  
DfAMの実現

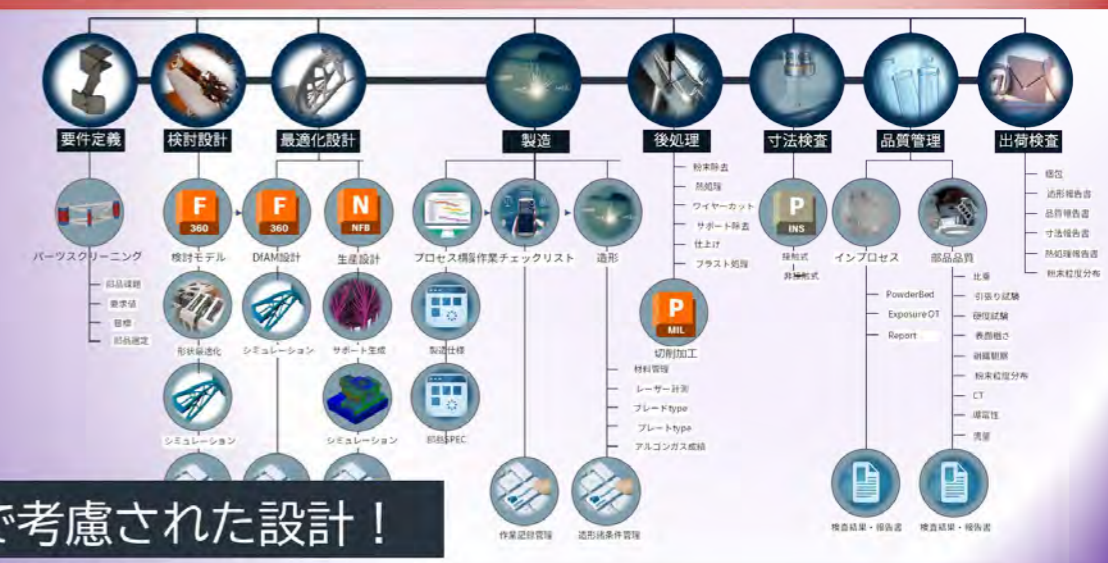


AM工法に最適な部品との出会い！

AMの特長を最大限活かした設計！

製品設計	生産設計	コスト算出	製造	後処理	品質/寸法検査	報告書/発送
<b>目標値の設定</b> パーツクリーニング 製造コスト/生産数 機能性/軽量/Assembly <b>設計</b> 部品最適化(GD/CAE) 造形方向 加工方向/加工代 デザインルール AM設計最適化(DfAM) <b>工程設定</b> 製造プロセス構築 品質/寸法検査項目/間値	<b>造形データ</b> 配置/ローテーション サポート設計 デザインルール <b>照射パラメータ</b> パラメータ選定 造形時間算出	<b>工程再構築</b> 製造プロセス スケジュール <b>費用算出※</b> マシンチャージ 材料単価と体積 造形消費 内部特性検査費 寸法検査費 後処理費 熱処理費 切削加工費など	<b>素材造形</b> 粉末検査 消耗品確認 造形データ確認 造形開始 Powder Bed確認 作業チェック表※	<b>後処理工程</b> 粉末除去 熱処理 ワイヤークット サポート除去/仕上げ 切削加工 表面処理	<b>品質検査</b> 粉末検査 インプロセス検査 品質検査 寸法検査 <b>報告書作成</b> 粉末検査成績書 熱処理成績書 造形報告書 作業記録表 品質検査成績書	<b>発送準備</b> 報告書管理 発送前検査 梱包方法 発送品エビデンス

製造プロセス全体を考慮したデザイン設計！ 品質/コスト/安定性まで考慮された設計！





# 『切削加工技術向けプロダクト』 サービス

とにかくエンジニアの業務を、より短縮へと繋げていく！

オペレーション  
最適化ソリューション



加工延長面  
自動生成ツール

2024.4リリース

ツールパス  
自動生成

加工指示書  
作成支援ツール

Post Editor

検査パス作成  
支援ツール

F AUTODESK Fusion  
P AUTODESK PowerShape

P AUTODESK PowerMill

P AUTODESK PowerInspect



技能継承  
ソリューション



【After】

- 統一された登録・管理画面でシンプルに
- CAMに情報は残さず、継承しやすい蓄積

【After】

- 入力したい項目は自由に設定
- 独自で管理したいノウハウを1つの仕組みで管理

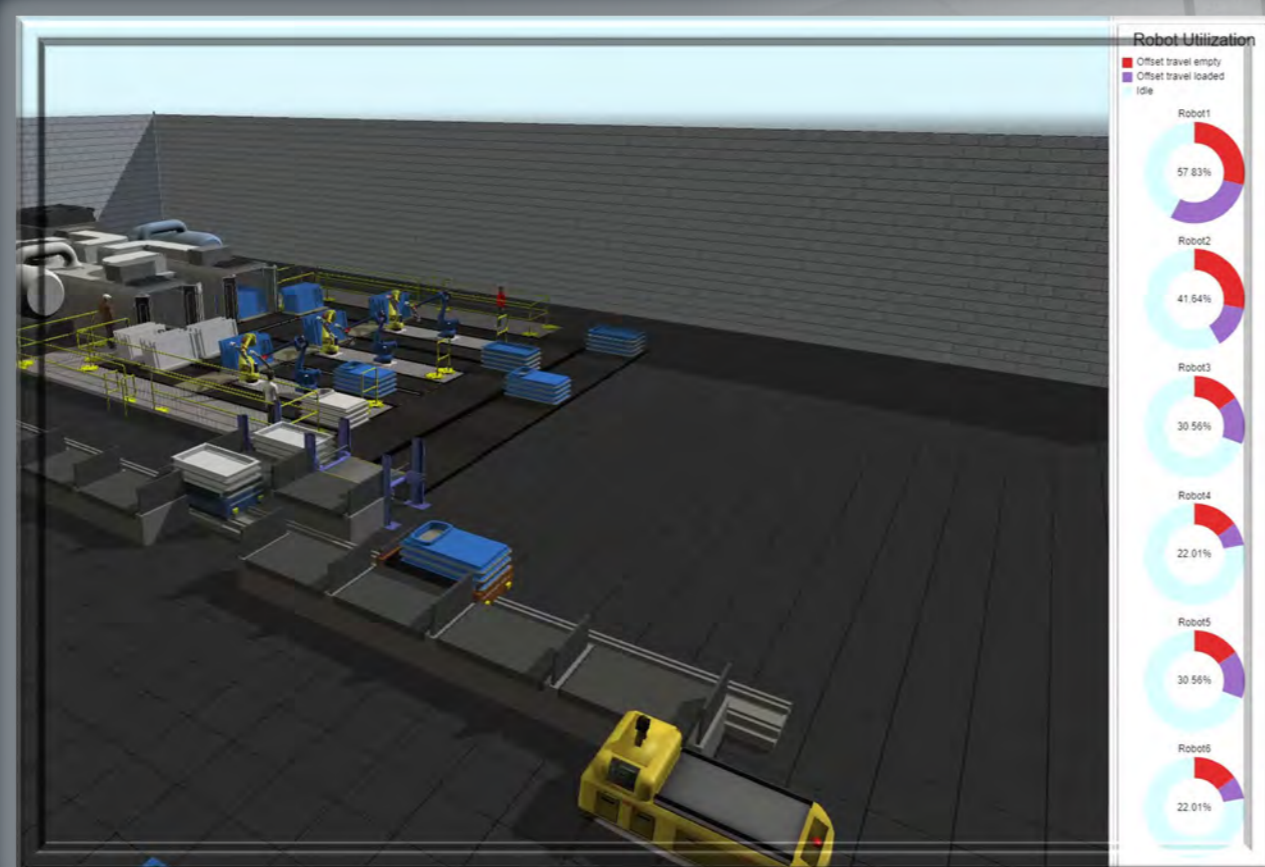
【After】

- CAM情報をマッピング
- 出力先CAMを選択し、連携可能に

ものづくり業界が抱える技術継承の問題を解決！



# 『工場シミュレーション』サービス



**FlexSim**  
An AUTODESK Company

## FlexSimとは

工場の生産ライン/物流倉庫/ロジスティクス/マテハンなどのレイアウトを見える化し、現状分析の結果から課題を発見する3Dシミュレーションソフトです

- ・ 装置 + 製造部品 + 人員配置 + 生産ライン（生産量&時間）の分析と課題抽出
- ・ 物流倉庫の人件費やランニングコストの分析。更には機械導入における効果の算出  
【単位時間当たりの処理能力/生産性の最大化/サイクルタイムの最小化/労働生産性の向上/ボトルネックの削減】
- ・ BIMデータとの連携により、工場全体を最適化

人・モノの流れがある現場の生産性向上とリスク回避を実現します





## 業績予想

6

# 業績予想

(単位：百万円)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	予想	対前期増減率	予想	対前期増減率	予想	対前期増減率	予想	対前期増減率	
通 期	7,100	△9.4%	920	△1.9%	936	△6.3%	645	△11.1%	112.97円

売上高営業利益率：13.0%

売上高経常利益率：13.2%

(注) 本業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績目標の達成に向けて、引き続き尽力してまいります。





# APPENDIX

OGI GrowUp2028

会社概要

7

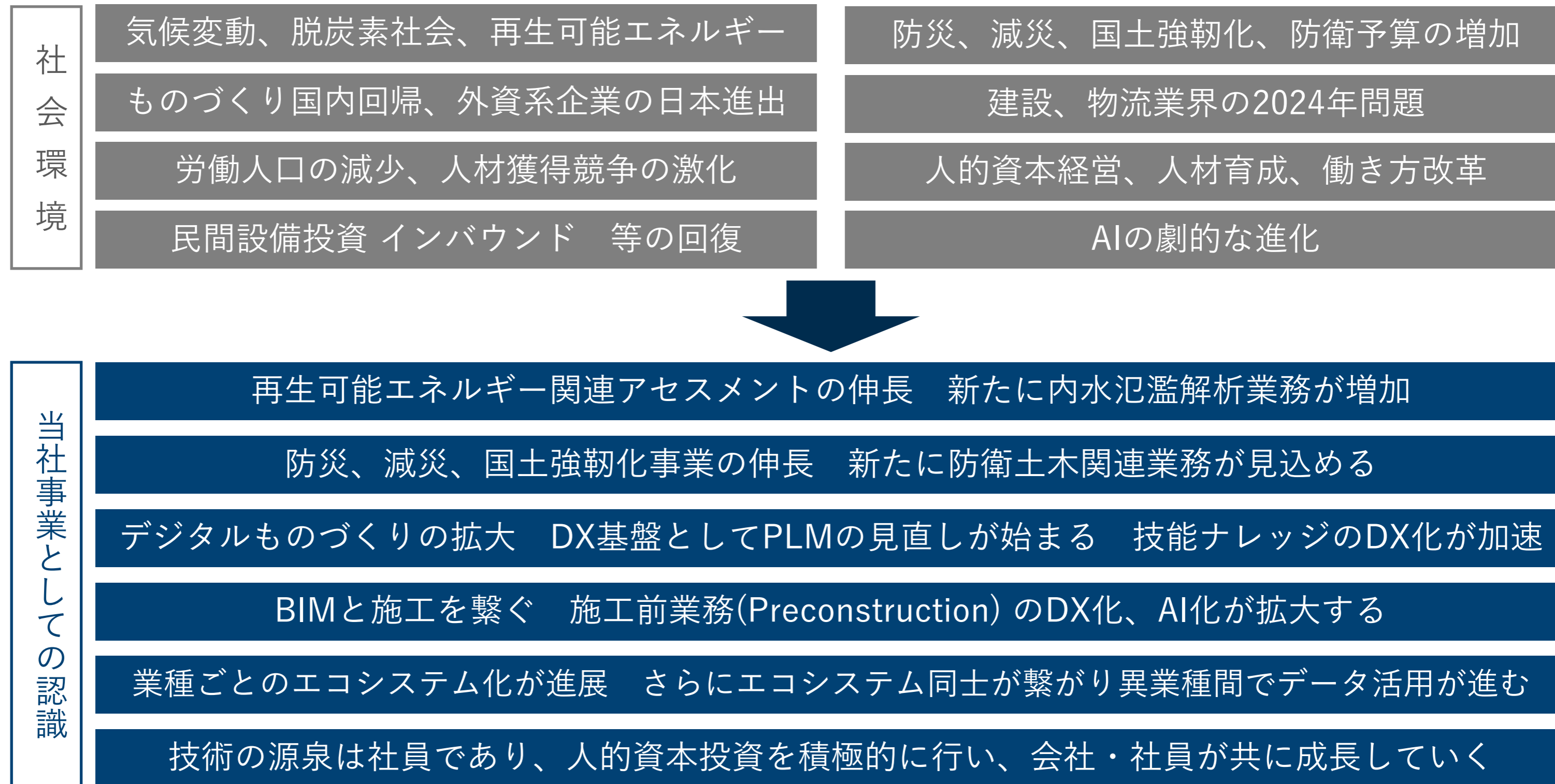


# OGI GrowUp2028 概要

中期経営計画（2024年～2028年）



# 自社を取り巻く環境と当社事業としての認識



# 中期経営計画での実施事項



- 技術やノウハウの共有による技術力の強化ならびに品質の向上
- 多様な学習機会を提供する基盤構築
- キャリア構築に向けた挑戦できる機会を提供する基盤構築
- マネジメントと評価の再確認とレベルアップ



- 技術力の向上と開発基盤投資により、一人当たりの生産性を向上する
- 保有する環境系の技術力をサービス化し、デベロッパーやゼネコンなどに広く提供する
- 強みである製造業の顧客接点ソリューションのSaaS化を行い、住設・建材業界の標準プラットフォーム化をめざす
- 準大手・中堅ゼネコンへのBIMの普及と地場ゼネコンへの展開を強化する



- 内水氾濫解析やデジタルツイン事業の拡大を行う(環境、防災減災、Local5G)
- 強みである製造業の顧客接点とPLMを連携した「ものづくりDX」の拡大を行う
- BIMと施工を繋ぐ Preconstruction のDXとして、調達DXへの進出(製造業にも共通のプラットフォーム)と生成AIを活用した自動化の研究を進める
- サブコン(空調、電気、機械)向けのBIMサービスを拡充する



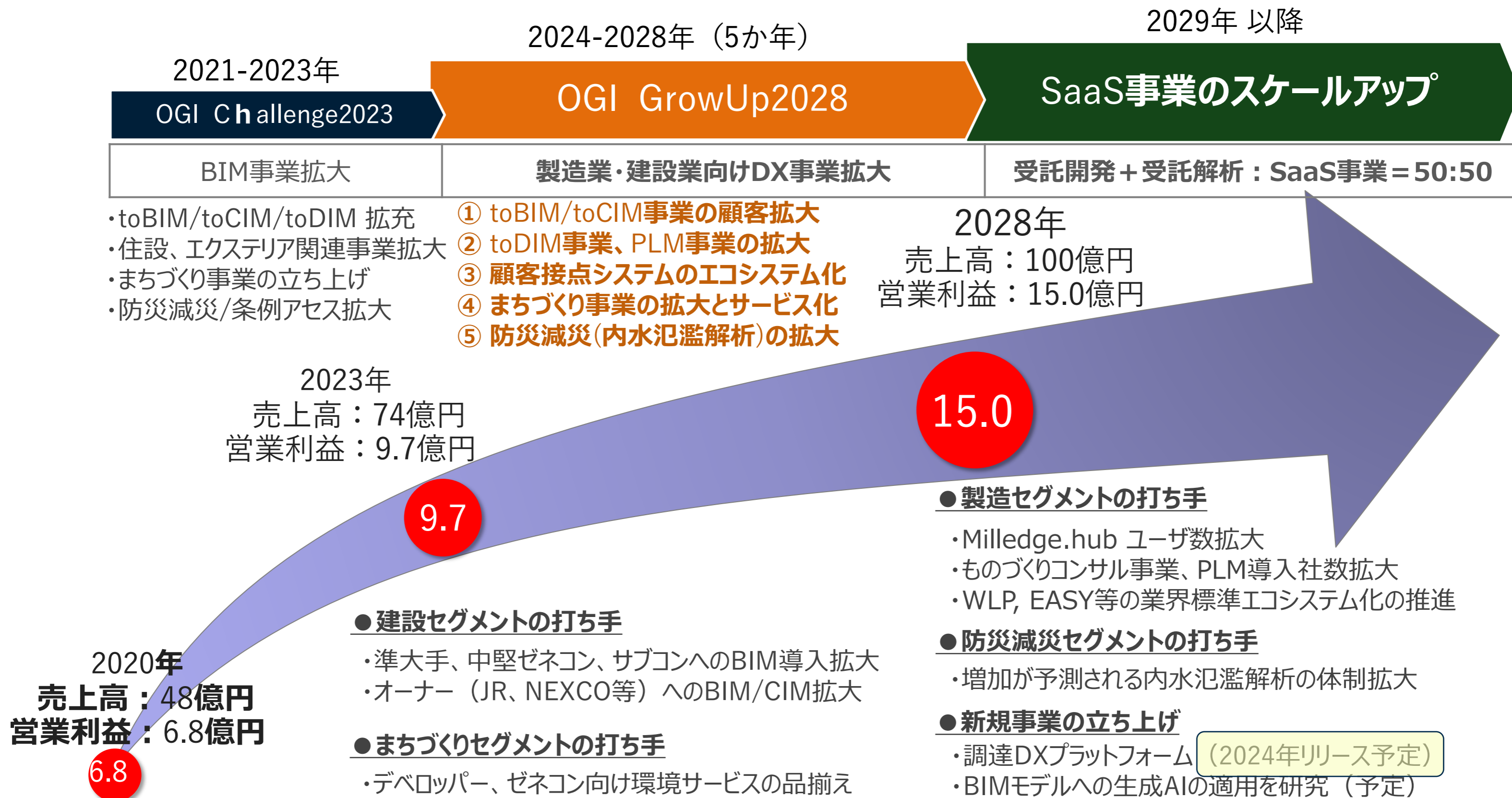
# 中期経営計画の計数目標

(単位：百万円)

	2023年 12月期実績	2024年 12月期計画		2028年 12月期	年平均成長率
売上高	7,419	7,800	➡	10,000	6.2%
営業利益	978	900	➡	1,500	8.9%
営業利益率	13.2%	11.5%	➡	15.0%	+1.8Pt
経常利益	1,048	910	➡	1,510	7.6%

中期経営計画「OGI GrowUp2028」は、当社がこれからも長期にわたり成長し続けるための施策を実行する期間とし、将来に向けたビジネスモデル変革を考慮した大幅な組織変更や、技術力の向上と蓄積を行うための人的資本投資ならびに社会の変化にいち早く対応した新サービスの提供を行うため、5か年の計画としました。

# 長期的な企業価値の向上をめざして







# 会社概要

2025年6月末現在

# 会社概要

(2025年6月末現在)

商号	応用技術株式会社
本社所在地	〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル
代表者	代表取締役社長 船橋 俊郎
設立年月日	1984年6月14日
上場市場	東証スタンダード
事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
資本金	600,000,000円
発行可能株式総数	22,200,000株
発行済株式総数	5,716,800株
単元株式数	100株
大株主（議決権所有比率）	トランス・コスモス株式会社（60.24%）
株主数	1,121名
従業員数	272名



# 本資料に関する特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、現時点において当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、今後の日本経済、株式市場の動向や情報サービス業界の動向、新たなサービスや技術の進展等により、大きく異なる可能性があります。  
従いまして当社として、その確実性を保証するものではありません。

 <https://apptec.co.jp>

ご覧いただきありがとうございました。

 応用技術株式会社

課題を価値に変えるイノベーション・カンパニー